



隅
 都路往來
 書東海道
 往來
 來
 元極喜松



頭東海道都路往來

まの内わりのあぢもれつれり
 一とせに一夜の外のちまうさ
 年ばかりてより秋はかきそ
 けのあはれはあはれ七ツの
 七ツのやわらぎをていし
 秋のくちをせむさぬきぬらん
 らせをせぬきぬらん天の川
 夜をそ月のたぬきをぬらん
 かきそあはれはあはれ七ツの
 まむささくすまむささく
 いささつらささささささ
 候をまらぬきの川の川を
 伝ひてぬれし杖を袖の秋の
 月にはくすまむささくささ
 秋の月にはくすまむささく
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川
 まらぬきの川の川の川の川



隅田川往來



隅田川往來
 秀つらぬのこころに
 いせおびるれぬきぬらん
 あまはねく世にまらぬきぬらん
 りは田川とつらぬきぬらん
 つらぬきぬらん川とつらぬきぬらん
 のかさつらぬきぬらん川とつらぬきぬらん
 づらぬきぬらん川とつらぬきぬらん
 往來ははつらぬきぬらん
 そのあはれはあはれ
 まらぬきぬらん川とつらぬきぬらん

庭 崎 野 有 不 此 中 定 心
崎 崎 野 有 不 此 中 定 心
崎 崎 野 有 不 此 中 定 心

さ 小 園 系 の 葉 根 の 葉 根 の 葉 根 の
さ 小 園 系 の 葉 根 の 葉 根 の 葉 根 の
さ 小 園 系 の 葉 根 の 葉 根 の 葉 根 の

見 合 大 船 之 意 智 順 風 之 帆 之 帆 之 帆
見 合 大 船 之 意 智 順 風 之 帆 之 帆 之 帆
見 合 大 船 之 意 智 順 風 之 帆 之 帆 之 帆

各 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙
各 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙
各 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙 之 妙

角 田

四

柏下
みらふ
の華

油井
のいそ

おろす
梅着丸
梅
潤田川
清
の原

乃松風
と松
朝
乃

よわし
の厨中と
て子とも
はひの鞠
子といハ
記しみる
をゆき
られ今と

整れ者
ねよつれ
多田の
袖が
て
大井川
く
答

池成見を
山夕
のと大
生
志
志

山根
山根
山根
山根
山根
山根
山根
山根
山根
山根

あきくきり
のときを
暇坂の歌
かちしを
知おし
上産を
あひ熱
川のいれ

かみ井
熱をよ
清松の
きせま
ハとの歌
やたが
坂中

にき道より遠西
御来家
氏乃家
みね
美々
氏乃家
みね
美々

の考長
おり
むか
牛
田中

角田

七

うしん
志遠此む
すぬ池輕
舞乃養云
てふ
海と深
田此
其
疾

忽う流あふ
種のお
や
し
船流もは
おん
業所

風來威吟いほし石原
の元吉天子出雲伏持
と猶見ざるくハ飛井
戸天海宮に徳者業
乃來生因の継持同

海ちおきむはをてに
い海し見と養寺をり
代高い懐文に持るひを
とも奉奉りまより汀
お出深くま海田安

野のふか
ぬ糸山
美代
色
あに福が
ひと雲の
地
のちりく

ぶりや坂
此はおれ
山
ふ
れ
ら
のた

存上総雲のしおた
うん流又流波す
水無能川流湊なる
て名陽成院の御祭
と井ひあらの物さる

海土流舟中良の流
もかろあらん
雲乃き加
ねまの路
むふに富士の志山

そんごも
ほくしや
茶津乃
飛色大坪
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

かのごまご
廉子畑の餘情ふも
万歳遠を人乃
名ぬく在津將のむら
今るるやうにや
し清心妻け眺望是に

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

意よりしるし
 海よりしるし
 小舟しるし
 遠小舟しるし
 舟しるし
 舟しるし
 舟しるし
 舟しるし

刻々
 穴貫く
 隅田川
 復興
 終

撰者浪花兎第子再刻

筆者近田中道

えぬの年

十二月異名十一月の異名をうけられたゆゑに夏秋のち

八通

正大簇

二更鐘

三姑洗

四中呂

いゝ

五月

六林鐘

七欠則

八南呂

いゝ

九月

十應鐘

十一黃鐘

十二大呂

いゝ

文政九歳丙戌春新刊

いゝ

書林 萬屋東平板

